

【同窓会だより 31 回生】

## 31 回生同級会報告

山本 恒夫(31 回生)

去る平成 21 年 10 月 22 日(木)・23 日(金)、「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」という文豪 川端康成の名作「雪国」巻頭の一節で有名な新潟県越後湯沢温泉で専校 31 回生同級会を開催しました。

桑原幹事の努力で同級生 34 名全員から近況報告をいただきましたが、本人の体調不良やご家族のご都合で欠席者が次第に増え、出席は 8 名でした。準備中、不幸にして前田正人さん(九州)の訃報に接したことは残念でした。

雪とスキー、温泉で有名な地方なので冬将軍到来を目前にして寒さや、新型インフルエンザの流行にやや不安もありましたが、幸いにもまたとない快晴に恵まれ「谷川岳」を登山してから到着した超元氣者がいたことも驚きでした。

一番楽しみにしていた宴会に先立ち、ご逝去された方々のご冥福を祈り、全員で黙祷を捧げました。越後の銘酒を飲み比べ、新米コシヒカリを食べ、懐かしい京都春栄町専校時代の話で華が咲きました。校舎 2 階の物置にゴザを敷き、寮生第 1 号として寝起きたのもこのクラスからです。卒業してから 53 年、遠い昔の物語になりましたが、今、頭髪が白くなっても、酒の飲みっぷりは益々元氣で、時間を忘れて楽しく語り合いました。

翌日は、世界最大級 166 人乗りロープウェイで湯沢高原「アルプの里」に登りました。四方を最盛期の紅葉に囲まれ、目前に上越国境谷川連峰をのぞみ、目を転じると NHK 大河ドラマ「天地人」で有名な、直江兼続の生誕地、魚沼平野(コシヒカリの産地)が一望出来るすばらしい絶景に魅せられながら、新鮮な空気で心身ともにリフレッシュしていただいたのではないのでしょうか。

川端康成の「雪国」執筆の宿と資料を見学後、次回健康での再会を約束して、佐渡観光に行く人と別行動をとり、ジャンボおにぎりで昼食後解散しました。

出席者

竹下 亨、田中高生、西田 博、藤田瑞穂、山田勝彦、渡辺能任、桑原 忠(幹事)、山本恒夫(幹事)

以上

\* 通巻 194 号 2010 年 1 月 10 日発行(H21-No.4)より

